

●要支援者のデータから見えてきた問題点	
・要支援者は全認定者の3割。今後増加するが、マンパワーは減る	
・要支援になった原因は、関節疾患、骨折・転倒などが多く、多くの人は糖尿病などの持病も持っている。 身の周りの動作は自立しているが、外出の回数が減っており、この状態で活動が減ると、交流や役割も減り、心身の状態は悪化する	
・全国と比べて、要支援者の1年後の維持が少ない、悪化が多い	
・新規要支援者の1年後の「非更新」※が約2割いる(財団研究と比べて倍) ※「非更新」:介護申請しただけの人、サービスや専門職支援を受けない人等	

介護予防・自立支援(=要支援者・フレイルの暮らしの改善)が必要!

- 暮らしの改善とは : 医療や介護のサービスだけでなく、**生活を変えること**
  - ・日々の活動量を維持すること、増やすこと  
(もともとやっていたこと、できることを続けるなど)
  - ・人とのつながりを保つ、増やすこと  
(外出、知人・友人との会話、家や地域での役割、趣味など)
  - ・体調を整え、持病の悪化防止を防ぐこと(食事や口腔状態の改善など)



日々の暮らしが変われば…

- ☆元の暮らしに戻れる人(改善者)が増える
- ☆今の暮らしを継続できる人(維持者)が増える
- ☆専門職の負担軽減、社会保障費の増大の抑制につながる



全てではないが、周南市の問題点の要因!

●アンケート、意見交換から見えてきた 医療・介護・福祉関係者の問題 ※ここでは、市民や地域の問題は含まない。	課題 (医療・介護・福祉関係者みんなにとって必要なこと)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自立支援」や「介護予防」について、そもそも考えたことがない。意識にない。苦手意識がある。</li> <li>・利用者本人が主張しない限り、「頑張って元の暮らしに戻す」という意識は低い</li> <li>・「維持で精いっぱい、改善なんて無理」と、最初からあきらめている</li> <li>・「自立支援」「介護予防」の考え方、捉え方が人それぞれで違っている</li> <li>・関わりの最初の段階で、自立に向けた問題や課題を提示できていない</li> <li>・漠然とした生活目標から、漠然としたサービス利用になり、結果長期化する</li> </ul>	<p>介護予防・自立支援 (=要支援者の暮らしの改善) の必要性や、考え方を共通認識 することが必要。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・危ないから、不安だから、地域に迷惑をかけるから…とサービスを勧めがち</li> <li>・サービスを使うことが目的になっている、在宅での生活につながっていない</li> <li>・サービスや新たな活動など、何かにつなげなくてはいけないと思い込んでいる</li> <li>・サービスが入っていない日(時間)以外の過ごし方に、目が向かない、向きにくい</li> <li>・サービスを「家族以外の交流の機会」と捉えて勧める</li> <li>・「サービス」と名がつくためか、どこかで「してもらって当たり前」という認識がある。</li> <li>・本人だけでなく、専門職も不安でサービスを卒業できない</li> <li>・総合事業について周知されていない、理解されていない</li> <li>・訪問リハは「運動する機会」ではなく、「運動を促すひとつのツール」。 明確な目標設定・実施期間・サービスの終了があることを理解されていない</li> <li>・「もともとやっていたこと」「今できていること」の継続の重要性が理解されていない</li> <li>・各専門職がそれぞれ自分の領域のことだけをやっている</li> <li>・とりあえず介護保険の申請を勧める、とりあえず通所サービスや訪問系サービスを勧める</li> <li>・つなぐということに主眼が置かれた連携になりがち。目的や中身が共有できていない</li> </ul>	<p>介護保険の理念を踏まえて、 サービス活用のありかたを 共通認識することが必要。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大切な社会的資本(人とのつながり)に目を向けられていない。医療と介護だけになりがち。</li> <li>・持病の重症化防止や、体調管理の観点が軽視されがち</li> <li>・栄養面、口腔面について、関心が薄い。あまり意識していない</li> <li>・食べていれば良いと、どこかで思っている</li> <li>・地域の取組を知らない。通いの場、サロン、有償ボランティアなど</li> </ul>	<p>要支援者の暮らしの改善に つながる幅広い知識を持つ ことが必要。 (栄養・口腔・人とのつながり等)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人不在のカンファレンス(専門職だけではどうしても偏る)</li> <li>・対象者に応じたサービスの利用目的になっていない</li> <li>・生活(暮らし)の情報共有が十分出来ていない</li> </ul>	<p>本人らしさ、本人の暮らしを 意識して行動することが必要。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で、専門職間の情報共有がうまく行えない</li> <li>・コロナで、社会的な居場所づくりが難しくなっている。</li> </ul>	<p>コロナ禍のリスクを意識して 工夫することが必要。</p>